

「終わりに

たくさんの人からアンケートの回答をいただきました。「いつも楽しみにしています。大変ですが、がんばってください」。そんな励ましの言葉をたくさんいただきました。

昨年からの新しい紙面にも、予想を超える反響がありました。「読みにくくなった」という意見が多かったらどうしようと心配していましたが、アンケートではたくさんの方が「読みやすい」に○をつけてくれました。しかし、良い面ばかりではありません。「字が小さい」というものや、フルカラーだからこそ「色を使いすぎていて見づらい」という意見もありました。

まちに住む人のために広報を作る。旧市町村で初めて広報が発行されたとき、合併を迎えようとしていたとき、そして菊池市となった現在も、広報担当者はまちに住む人のために広報を作り続けてきました。まちに住む人へ、読みやすく伝える広報紙を届ける。どの時代でも、その思いは変わりません。コンクールで特選をいただいても、まちに住む人が読みたいと思えなければ意味がないのです。住む人が手に取り、読んで内容を理解してこそ、そこから新しい一歩が始まります。

広報きくちはまちに住む人と行政をつなぐパイプ役として、これからもたくさんの情報を掲載していきます。

特集「菊池の広報紙」 終

紙面後半にある「情報つう」は、市役所・国・県からの情報を掲載しています。子育て、健康診断、ごみ問題、確定申告などいろいろな種類の情報が並びます。内容も、申請が必要なものの、募集するもの、イベント情報とさまざまです。

昨年5月から、記事の内容ごとに項目を分けました。さらに各項目ごとに見出しの色を統一。過剰な色使いやデザインも取り除き、読みやすい紙面を心がけました。アンケートでは、59人が「とても見やすくなった・見やすくなった」と回答。「色分けしてあり分りやすい」という意見があった一方で、「オレンジ色が強すぎる」という

知らせたい情報は項目を分けて読みやすく

意見もありました。

情報つうに掲載するのは行政からのお知らせだけではありません。「市民の広場」は住んでいる人から発信される情報を掲載するために設けました。これにより、「住民と行政」だけでなく、「住民と住民」をつなぐ役割を広報紙が持つことができます。

4月号からは、表紙に掲載していた「紙面より」を拡大し、すべてのお知らせを見出しから検索できるように変更します。

情報つう

同じ色分け先にある情報の関連性も記載しています。
各紙面支所内には色分けはできません。
市役所支所 0966(32)1006
紙面支所 0966(37)3111
市役所支所 0966(36)2112

「情報つう」のタイトルロゴ。ここからお知らせが始まります。

●こんなコーナー・特集があったらいいな

- ・市民から市役所に対する一般的なお尋ね・質問に答えるコーナーを設けて（50代女性）
- ・菊池の特産品をみんなに知ってもらうため写真入りで掲載して（70代男性）
- ・市役所の部署ごとの紹介を特集して（70代女性）
- ・高齢社会の中で市内でも現役で頑張っている高齢者が多くいる。特集でその姿を載せると高齢者に励みになると思う（70代男性）
- ・不況を乗り切る（医療費、年金、税、お店など）お得な情報を掲載して（40代女性）
- ・地域を支える小さな活動グループなども地域の力になるのではないのでしょうか（70代男性）

●ここを変えてほしい

- ・横文字の言葉を使わないで、誰にでも分かる言葉をお願いします（70代女性）
- ・目次から必要なところを見ているので、目次をもう少し詳しく載せてほしい（60代男性）
- ・文芸きくちは意味が分からないので、漢字にふりがなをつけてください（60代女性）

広報は読まれているのか 市民アンケートを実施

広報きくち11月号で紙面を使つての市民アンケートを実施しました。市内外92人の人から回答と貴重なご意見をいただきました。市民の皆さんが広報きくちに望むものは何か。アンケート結果とともに、考えていきます。

90%以上の人が「広報を毎月読む」と回答

回答者92人の内訳として、男性が32人、女性が54でした（無回答6人）。回答者の多くは60代以上でした。

86人が広報きくちを毎月読むと回答し、82人がフルカラーを「とても見やすい・見やすい」と回答しました。文字の大きさでは、78人が「とても見やすい・見やすい」と回答したのに対して、11人が「見にくい・とても見にくい」と回答しました。

「まちの話題を伝える」「トピックス

まちで起きた出来事などの話題を掲載している「トピックス」。話題になる事柄・出来事という意味があり、広報紙ではお知らせだけでなく、まちでどんなことが起こっているのかを知ってもらうために掲載しています。

アンケートでは、49人がトピックスを読むと回答しました。情報が分かるという意見だけでなく、「賞状を持つ



で市長と一緒にの写真は必要なのではないか」といった意見もありました。新聞やインターネットと違い、広報紙に即事性はありません。出来事が起きてから、紙面に掲載し、読んでもらうまでにどうしても時間の遅れが出てしまいます。またすべての記事を大きく取り上げることでも簡単ではありません。記事の内容や紙面の都合で掲載できないものもあります。しかし広報紙だから掲載できるものもあります。広報をより身近に感じてもらえるよう、これからもたくさんの話題を載せていきます。

全国の市町村がつくる広報紙

47都道府県には1,700以上の市町村があり、同じ数の広報紙が発行されています。ほとんどの広報紙はA4判で作られており、フルカラーもあれば1色や2色刷りなどもあります。

それぞれの広報紙が、独自のスタイルを持っています。表紙だけでも、写真の大きさ・題字のデザインなど同じものは一つもありません。さらに、大津町では「大津のことがもっと好きになる情報誌広報おおづ」という題字をつけ、荒尾市や長洲町などでは小学生に題字を書いてもらうなど、それぞれに工夫しています。

すべての広報紙は、そのまちに住む人のために作られているのです。

全国から届いた広報紙は、企画振興課で保管しています。自由に閲覧することもできますので、ご覧になりたい人はお越しください。

